



# 第1会場●2F 第4研修室

■司 会/緒方 友希 熊本県宇城市立小川小学校 教諭  
久保 淳一 薩摩川内市教育委員会社会教育課 社会教育グループ長

**分科会の進め方** 13:30~13:35

**1 子ども会活動が生み出す地域の活力  
—子どもの笑顔が村を変える—** 13:35~14:05

糸嶺 直生(沖縄県座間味村 慶留間子ども会育成会 会長)

毎週土曜日の定例活動を通して子ども会行事を企画し、行事の展開に慶留間村の青年会、老人会などの指導を依頼している。依頼した子ども会と依頼された団体の間に協働の状況を創り出せばそれが地域行事へと成長する。近年の稲の栽培、ジャガイモづくり、そば打ち、陶芸、慶良間ツツジの植樹、慶良間鯉節の開発などの活動に参加する子どもの笑顔が世代間交流と地域の活性化に大きな効果を発揮している。

**2 学校統合を契機とした保小中高の連携した取り組み** 14:10~14:40

藤原 博(島根県雲南市立掛合小学校 平成21年度PTA会長)

小学校5校の統合を機に保小中高が地理的に近接した利点を活用して、4校が連携した取り組みを始めた。連携活動は、既存の教育課程の内外両面で展開している。活動を支えているのは、地域、PTA、保護者会、スポーツ少年団などの団体、及び各機関、団体等に所属する役員、コーディネーターである。連携をとおして学校、家庭、地域での子育ての充実発展、連帯の促進、地域の活性化を目指した活動をしている。

ティータイム 14:40~15:05

**3 光ジュニアクラブが創造したヤングカルチャーと中学生リーダーの歴史的意義  
—青少年ボランティア育成事業27年の思想と実践—** 15:05~15:35

守岡 勝正(光市青少年ボランティア育成協議会)  
石川 博之(光市青少年ボランティア育成協議会)  
松本 年正(光市青少年ボランティア育成協議会)  
浴口 努(山口県光市教育委員会 社会教育主事)

発足は昭和58年。教育委員会に事務局をおき、月1回程度の講座と企画会議を定例化している。養成したリーダーは延べ2,731名、21年度は過去最高の166名。研修内容は、子ども会の支援、地域ボランティア、リーダー研修、ふれあい活動の4部門、各学校には校務分掌として中学生リーダー担当を位置づけ、活動のプロセスは「中リー・光ジュニア通信」で報告される。「中リー」は市民に溶け込み、あらゆる方向から協力依頼が来るようになっている。

**4 子育てネットワーク大分集会の「継続の力」  
—生み出された成果・未来の課題—** 15:40~16:10

宮崎 克己(大分県中津市 子育てネットワーク大分 事務局長)

県内有志約40人による実行委員会形式で企画・開催。各種の助成を摸索して本年度で7回目。ネットワーキングの内容は親子で参加できるプログラムの企画と実施、情報の交換・交流、具体的なものづくりの体験、大学や学生との連携など。継続効果により知名度も上がり、リピーターが定着し、子育てに関心を寄せる次世代の学生や市町村行政の参画も得られるようになってきている。